



タヌキの逆襲

かみね動物園では、初めてとなるどうぶつ総選挙を行いました。名付けてKMN第1回どうぶつ総選挙！いくつかの候補を飼育員が選んでおき（今回は12種類の動物たちがエントリー）、来園者に投票してもらうというものです。結果は、本ページにも掲載されていますが、堂々の1位は・・・ジャーン・・・ウサギさんでした。は？飼育員たちもこの結果にちょっと驚きました。なんとなくイメージしていたのは、ゾウとか、ライオンとか、カピバラなどだったのですが、ウサギ？・・・そんなんでいいの？という感じですが、投票したのは（多分）圧倒的に小さいお子さんだったことが関係しているのかもしれませんが。



《堂々の1位》

いろんな事情でペットを飼えなかったり、普段動物を目にしないというのがあるのかもしれませんが、かわいくて触れあえる、というのは確かにちびっこ達にとっては大きなポイントになります。ふれあい広場では、ウサギやモルモットをいつまでも抱いてる子を見かけます。触れた感触はぬいぐるみや人形と同じかも知れませんが、動いて温もりがあるところが、それらと決定的に違うところです。ウサギが立候補した時点で勝負は決まっていたのかもしれませんが。人間は、おとなしく従順な生き物をかわいがり、癒されたいという根源的な欲求があるのかと思いますが、気持ちが純粋な子どもたちにはその傾向が一層強まるのかもしれませんが。

同じように、「園長への手紙」でも「もっと触れあえる動物を増やして下さい」というご意見をよく頂きます。気持ちは分かりますが、やはり動物園では安全性を第一に考えなければなりません。一見「かわいい」と思える動物でも、鋭い歯で、時にはお客さんを傷つけることがあります。当園でも、リスザルの島ではサルたちを間近で見てもらおうと放し飼いにしているのですが、オープン間もない頃は、触れるのを大目に見ていました。しかし手を出したお客さまが噛まれるという事故が時々発生しました。幸いにもいずれも大事には至りませんでした。やはり彼らは手なずけたペットではないのです。（今は、保安員が手を出さないよう指導しています。）



《リスザルの島》

私もこの間、「子どもが、タヌキの運動場におもちゃを落としてしまった。取ってほしい」というお客さまがいたので、わざわざ飼育員を呼ぶほどでもないだろうと、軽い気持ちで中に入ったら2頭のタヌキから総攻撃を食らってしまいました。幸いズボンの上から噛まれたので大したことはなかったのですが、その時改めてコイツら（と心の中で叫んだ！）はやっぱり野生モンだ、と思いました。普段展示している2頭のタヌキとは運動場越しによく追いかけてっこをしていたので、「自分にはなついているかわいい奴よ」とタカをくくっていたのですが、それはこちらの勝手な思い込みで、気持ち良く寝てるのに、自分たちの生活圏に入って安眠を妨げる悪い奴を追っ払おうとしていただけなのかもしれません。その悪者がいよいよ中に入ってきたので「ソレ、やっちまえー」とばかりに仕掛けてきたのでしょう。結局飼育員を呼び、事なきを得たのですが、かわいいという一方的な思い込みだけで動物は扱えないといういい例（悪い例？）かもしれません。



《かわいいタヌキさん達》

ともかく、ふれあい動物を増やすということはそれなりにリスクーでもあるし、また野生の動物たちを展示していくという動物園の立ち位置からも少しずつ離れていく作業にもなっています。今回のどうぶつ総選挙では、子どもさんの素直な気持ちが結果としてあらわれたものと好意的に受け止めながらも、総合型動物園としてバランスのとれた運営をしていきたいと思えます。

※「[どうぶつのくに](#)」連載の「[あっ、かみね動物園だVOL.11はこちらからご覧ください。](#)」

（新しいウィンドウが開きます）

2014年4月3日